

## (5) 大川筋中学校

学 校 長 山沖 美保  
校内研究代表者 谷崎 美佳

### 1. 研究主題 「基礎基本を活用し、思考を深める授業づくり」

### 2. 主題設定の理由

本校は四万十川本流のすぐそばに位置し、自然に恵まれた環境にある。生徒数3名（1年生1名、3年生2名）の極小規模校だが、地域や小学校と協力し合いながら主体的に、健やかに学習を重ねてきた。

今年度をもって本校は休校となる。大川筋中学校最後の1年をどう締めくくりたいかを考えた結果、「郷土を愛し、確かな学力と生きる力を身に付けた生徒の育成」という学校教育目標のもと、総合的な学習の時間と教科指導が相互に作用するような授業づくりを通して学力向上や郷土愛の醸成を図ることを目指し、「基礎基本を活用し、思考を深める授業づくり」という研究主題を設定した。

### 3. 研究の進め方と方法

- (1) 教科間連携による思考を深める授業づくりの探求
- (2) 総合的な学習の時間 ―ふるさと学習―

	進め方	方法
1	各教員の授業を、視点を揃えて参観し、思考を深める授業づくりにつながる課題設定や手立てについて話し合う。総合的な学習の時間に活用できる知識・技能・思考力・表現力を育成することを目指す。	チーム会（指導案検討→模擬授業→研究授業→協議の1セットを全員が1回以上行う）
2	地域の良さや魅力を取材し、発信する取り組みを総合的な学習の時間に行う。取材や発信にあたり、必要な力、技能を各教科の授業で育成する。	グループ別学習 各グループの計画立案、連絡調整、まとめ発信は全て生徒に行わせる。

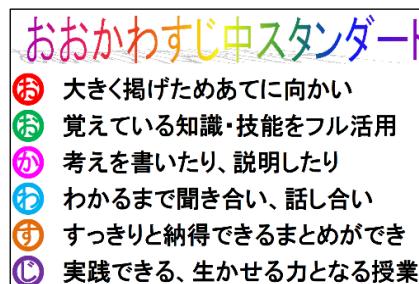
### 4. 具体的取組

#### (1) 教科間連携による思考を深める授業づくりの探求

本校では2018年度より、教科間連携による思考を深める授業づくりの探求に取り組んでいる。「思考を深める」とは、「ふるさと教育につながる教科横断的な思考力を育む」ことであると定義し、教科の枠を超えて考える力を育成するために授業改善を行ってきた。

取り組み当初から、人数の少なさもあり全教員を1つのチームとして捉え、チーム会を運営してきた。全員で話し合う場が設けられることで、おおかわすじスタンダードに基づいた授業づくりや新学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくりを同じ視点で目指すようになったと感じる。

一方で、少ない人数の中、授業参観や授業公開を何度も行うことによる多忙感が生じ、モチベーションの低下を招いていた部分もある。どの教員も真面目に取り組んでくれる分、このままでは取り組みの意義を見失ってしまうのではと危惧した結果、昨年の後半より取り組みの見直しを図った。



右が見直し後のチーム会の形式である。

「量より質」を意識し、公開・参観の回数をしぼる代わりに、教材研究の中身を濃くした。学習指導要領を読み合いながら各授業のめあてや展開を議論したり、模擬授業で実践的な課題を出し合ったりすることを通して、それぞれ自分の授業と深く向き合うことができたのではないかと感じる。また、指導主事を招聘し、模擬授業や事後研究の助言を頂けたことも質の向上に繋がった。

**見直し後のチーム会の形式**

- 1人1回〔指導案検討→模擬授業→研究授業→事後研究〕のサイクルを回す。
- 校内研修とリンクさせ、指導主事を招聘し助言を頂く機会を設定する。
- 研究授業以外にも改善プランや授業者が呼びかけた授業を参観する。
- 小学校の先生にも声をかけ、参観してもらう。(小学校の授業も参観する。)
- 事後研究は4つの視点に合わせて振り返りを行う。

今年、授業改善・授業参観の視点を以下の4つに設定した。

**【 授業改善・授業参観の視点 】**

- ①生徒が見通しを持てる授業構成になっているか。
- ②生徒が主体的に考える授業になっているか。
- ③思考時間・思考場面を確保しているか。
- ④考えを広げたり深めたりするための工夫はあるか。

視点を設定することで何に困り感を感じているかが見えやすくなった。事後研究で出される課題は③④に関するものが多く、③の思考に関しては授業者の工夫、④の対話に関しては生徒同士の関わり方や対話のスキルを鍛えるために全教科での取り組みが必要であることが見えてきた。各教科が工夫しながら課題解決のための取り組みを試していくことで、生徒の姿も変容していった。

**(2) 総合的な学習の時間 —ふるさと学習—**

四万十市一校一役教育研究として「ふるさと教育」に取り組み始めて今年で4年、これまで様々な地域と関わる取り組みを行ってきた。右が昨年度の成果と課題である。

今年度、生徒数が3人となったこともあり、これまでの取り組み方法を継続するよりも新たな方法で「生徒が主役になる総合的な学習の時間」を創造していった方がよいと考え、学習の進め方を大きく変えた。

具体的には、生徒と教員がペアを組んでのグループ学習である。

まず初めに、全員で目標と年間で取り組みたいことを決め、校区にある9つの地区すべてに関われるよう、各グループで取り組みを分担した。下が実際に行った取り組みである。

**昨年度ふるさと教育の成果と課題** ○成果 ▲課題

- 学力調査における記述式問題の正答率上昇
- ふるさとアンケートの結果
  - 「大川筋地区が好きか」(60%→100%)
  - 「大川筋地区にいいところがあるか」(60%→100%)
  - 「ふるさと教育は必要か」(80%→100%)
- ▲負担感、多忙感
- ▲基礎の定着と結びつきにくい
- ▲取り組み同士の繋がりが弱い

**年間目標 「大川筋のおすすめスポットや、知っている・知らなかった良さをすべて掘り尽くす！」**

	Aチーム	Bチーム	Cチーム
取材・体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田出ノ川地区四万十ひのきの取材</li> <li>・鶴ノ江地区謎の「仏像」調査</li> <li>・手洗川地区カッカートン歴史</li> <li>・久保川地区フィールドワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高瀬地区カヌー体験、蛇紋岩採集</li> <li>・三里地区SUP体験、取材</li> <li>・高瀬・三里・勝間沈下橋の撮影</li> <li>・学校新聞づくり総指揮(編集長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝間地区山菜料理聞き取り、調理実習</li> <li>・勝間川地区ゆず農園取材</li> <li>・川登地区明星中学校取材、読み聞かせボランティアの方へのインタビュー</li> </ul>

発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページ</li> <li>・新聞への投書（特派員便り）</li> <li>・学校新聞</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページ</li> <li>・新聞への投書（特派員便り）</li> <li>・学校新聞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページ</li> <li>・新聞への投書（特派員便り）</li> <li>・学校新聞（3本）</li> <li>・掲示写真（各地区の写真）</li> </ul>
----	--	--	---

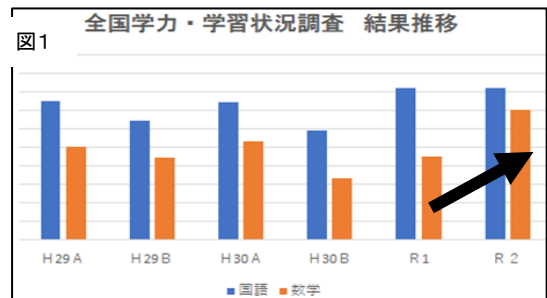
地域へ出ていき、地域の方と関わる中での学習がほとんどであるが、どのグループも連絡・調整はほぼ生徒が行った。初めは電話をかけることにも戸惑っていたが、2学期の終わりには自分から地域の方や新聞社の方へ電話をかけたり、テレビ局の取材に応じたりできるようになるなど、コミュニケーション面での成長が著しかった。地域の方も含め、外部の方と関わることで生徒の姿がどんどん変わっていくことを実感できた。取材を重ねるごとに主体性が増し、教師の想像以上にこだわりを持って一つ一つの作品（投書や新聞、パワーポイント）を仕上げるようになった。学校新聞づくりの取り組みでは、編集長を中心に何度も見直しを図り、よりよいものを目指す中で、対話の質も向上した。

総合の取り組みの充実に合わせて、各教科の授業にも変化が見られた。チーム会で生徒の成長を共有することが増え、授業を参観した外部の方々から「以前よりしゃべれるようになった。」「変わった。成長した。」という声も聞くようになった。誰もがやりがいや意義をもって総合や教科の授業に取り組む姿は、年度当初に目指した「各授業と総合が相互に作用する」状態に近づけていると思う。

## 5. 今年度の成果と課題（○成果 ▲課題）

### （1）学力調査等の結果から

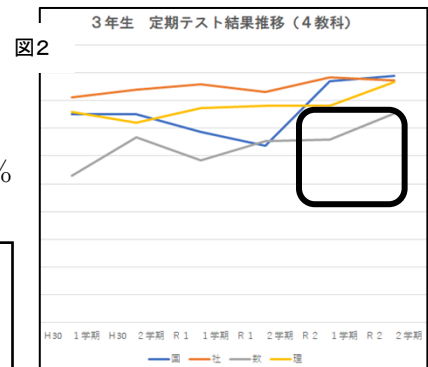
- 全国学力・学習状況調査ではこれまで課題があった数学に大きな伸びが見られた。（図1）
- 高知県学力定着状況調査では、全教科全国平均を大きく上回った。
- 3年生の定期テストにおける推移を分析した結果、今年度の結果に大きな伸びが見られた。（図2）



### （2）アンケートの結果から

- ふるさとアンケートではすべての項目で「強い肯定」が100%になった。

「大川筋地区が好きか」	（「好き」100%）
「大川筋地区にいいところがあるか」	（「ある」100%）
「ふるさと教育は好きか」	（「好き」100%）
「ふるさと教育は必要か」	（「必要」100%）



- ふるさとに対して「いいところがいっぱいある」「安心する」などの意見があり、ふるさとへの愛着が感じられた。
- 思考力・表現力だけでなく、かかわる力ややりぬく力も向上した。
- 生徒も教員も意欲的かつ主体的に、楽しく取り組めた。
- ▲思考力・表現力についてのアンケートから、振り返りに課題を感じていることが分かった。
- ▲今年度の総合的な学習の取り組みについてのアンケートで、「主体的な取り組みだからこそ時間配分や取り組み内容を選ぶことが難しかった。」という意見があった。